

<中期計画の4つの分野>
 I 教育
 II 研究
 III 社会貢献
 IV 管理運営等
 ※それぞれの分野について評価を行う

② 分野別評価

【分野別評価】

I 教育

5段階評価

A

○
○
○

大学の自己評価に対する検証結果や特記事項を踏まえ、下記指標に照らして5段階評価

S：特筆すべき進行状況（特に認める場合）
 A：計画どおり（すべてIVまたはIII、またはすべてIVもしくはIIIではないが業務の実施状況や特記事項の内容を総合的に勘案して評価委員会が特に認める場合）
 B：概ね計画どおり（IVまたはIIIの割合が9割以上、またはIVもしくはIIIの割合が9割に満たないが業務の実施状況や特記事項の内容を総合的に勘案して評価委員会が特に認める場合）
 C：やや遅れている（IVまたはIIIの割合が9割未満）
 D：重大な改善事項がある（特に認める場合）

項目別の評価を踏まえた評価を評価委員が記述
 （特筆すべき点や遅れている点について）

評価委員が記入

① 項目別評価

策定済（計画に掲載された内容）			大学による自己評価		
中期計画	年度計画	進行状況	実施状況	評価	評価理由及び意見
(1) 学部・学群教育					
1 ① 地域科目の開設等 地域課題に対応した既設の講義や実習に加え、地域の企業や行政と連携し実務家等による地域の文化・歴史・経済・社会等に関する地域科目を順次開講することにより、平成28年度以降の入学生が卒業時まで地域に関する科目を1科目以上受講する。	1-1 ① 地域科目の開設等 2019年度に再編・充実した基盤教育科目の地域科目12科目を開講する。講師には地域で活躍する行政担当者や企業の実務家等を積極的に招聘する。	IV	【地域科目の開講状況】 1 北九州・下関地域の文化、歴史、経済、産業等について学び、地域の魅力を知ることが目的として、基盤教育科目の「地域科目」を10科目開講した。（新型コロナウイルス感染症の影響等もあり、12科目中2科目は休講） 2021年度の地域科目の受講者数は2,424名（前年度2,531名）であった。 2 新型コロナウイルス感染症拡大の影響で、実務家教員の招聘が困難な状況ではあったが、83名（前年度86名）の実務家教員を講師として招聘した。実務家教員には、地元企業経営者、市役所担当部局の職員、市内文化施設の専門職員等を招聘し、実務家の知見から講義を行った。 【卒業時における地域科目の受講状況】 1		

■大学が記入済
 年度計画の項目ごとに、当該年度計画の実施状況等を下記指標に照らして大学が自己評価（4段階評価）
 <評価指標>
 IV：年度計画を上回って実施している
 III：年度計画を概ね順調に実施している
 II：年度計画を十分に実施できていない
 I：年度計画を実施していない

■大学が記入済
 年度計画の項目ごとに、業務実績、進捗状況、その判断理由等を大学が記述（実績報告書と同内容）

年度計画の進捗状況等を踏まえ、中期計画の項目ごとに、下記指標に照らして4段階評価
 <評価指標>
 IV：年度計画を上回って実施している
 III：年度計画を概ね順調に実施している
 II：年度計画を十分に実施できていない
 I：年度計画を実施していない

・大学の自己評価と評価委員の判断が異なる場合は、その理由を記述。
 ・判断が同じ場合でも、特筆すべき点があれば、その旨を記述。

公立大学法人北九州市立大学の令和3年度に係る業務の実績に関する全体評価調書

③ 全体

【全体評価】

-
-
-
-

③【全体評価】 評価委員が記述（箇条書き）

分野別評価の結果や、大学の実績を端的に示す指標等を参考にしながら、中期計画の進行状況全体について記述式により評価を行う（特筆すべき点や遅れている点、その他の意見等）。

（視点の例）

- ・ 事業の実施状況について（分野別・分野横断的な事項の実施状況等について）
- ・ 業務運営の改善・効率化等について
- ・ 財務状況について
- ・ 法人のマネジメントについて
- ・ 市民への説明責任と透明性の確保について
- ・ 地域貢献を目指した特色ある取り組み等について